

「認知症の疑い 早めに受診を」

町民フォーラム

白老

認知症をテーマにした町民フォーラム（白老町、白老町医師協議会など共催）が23日、町総合保健福祉センターで開かれ、三愛病院（登別市中登別町）の千葉泰二院長が「認知症の合図」

を演題に講演、町民ら約100人が耳を傾けた。

千葉院長は認知症を疑うような変化として①物忘れ②置き忘れ③時間や日になががよく分からなくなってきた④仕事や家事が以前のようにならなくなってきた



などを挙げ「軽度の時期に専門的な医療機関を受診することが必要」と指摘した。

対応や工夫として「家族の理解が必要」「介護者による適切なケア」「医師に相談して必要な薬をのむ」「非薬物療法もあり、周辺

認知症への理解を深めた町民フォーラム

症状の軽減につながっている」と述べ、「本人の意思を尊重してケアするのが大切ではないか」と強調した。「どんな生活が認知症になりやすいか」を取り上げ①頭を使う②人々との接する機会を増やす③適切な運動で頭を活性化させる④野菜や魚をたつ

ぷり取る」ことなどを挙げた。

落語家の露の団六さんも「落語家が見た成年後見制度」をテーマに講演した。
(富士雄志)